

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100859		
法人名	社会福祉法人 星峰会		
事業所名	グループホーム きらら(2F)		
所在地	熊本県熊本市東区新南部3丁目7番76号		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量の多い道路に面し、4階建ての2階3階部分に位置する街型のグループホームという立地条件を考慮し、建物内での取り組みに工夫をしている。4階部分のホールを利用し、趣味活動、交流の場とし、施設内にいながら4階のホールへ毎日出かけるという形をとることで、出かける楽しみが生活の中に取り込まれている。隣接する医療機関と連携を図り、利用者の健康管理や緊急対応にも万全の体制を整えている。また、運営推進会議を開催し、地域の方々や各関係機関の方々との情報交換やきららの活動報告などを行い、必要時に相談・助言をいただき連携を深めている。家族会も年3回を目標に開催し、交流を深めることでご家族の心の悩みに寄り添い、入居者様・ご家族双方が元気でいられるよう支援していくことに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大通りに面した住宅地の4階建てビルの2階・3階にそれぞれのユニットで形成されたホーム。エレベーター利用での昇降で外出がままならない分、4階ホールを利用した趣味や交流活動、屋上を活用した菜園作り・散歩など、居室に籠らないで外気浴を行う仕組みが多様に取り入れられている。また、リビングでは窓際のカウンターを定席として自分の小物を置き、屋外の街路樹に季節を感じ、空の色に昔に想いを馳せるなど、入居者の豊かな感性で時を過ごす様子を見守り、支援する対応が見られた。医療機関との連携で健康管理を行い、地域関係機関と家族を巻き込んでの運営推進会議開催など、利用者とその家族が安心した日々が過ごせることを視野に入れた運営となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践するよう努力している。	母体法人は、グループホームの他、小規模多機能ホーム、高齢者住宅、有料老人ホームなど、多様な介護施設の事業を複数展開しており、職員全体で時間を掛けて協議し、「その人らしい自分の生活を支援し、家族支援に力を入れる。行政、地域との協力体制を図る」ことを「理念」としている	せっかくの「理念」がどこにも掲示されていません。職員も家族も、そして利用者が、常に確認できるように、書道が得意な利用者様も居られるので、表現して展示されると良いと思われました。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩中には周囲の方達への挨拶をするよう心がけ近くのスーパーに買い物に行く機会も設けている。地域の「コミセン祭り」などへの参加のお誘いはいただいているが、まだ実践できていない。	一番の悩みはホームがビルの2階・3階にあり、エレベーターを利用しなければ外出できないこと。散歩として、近くにある東海大学そばの公園や系列保育園に立ち寄ることや、道を挟んだスーパーマーケットで買い物をすることなどで対応されているが、地域住民として、日常的な近所付き合いを行なうまでには至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方に運営推進会議へ出席していただき事業所の存在を情報発信していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し現状報告と共に現在抱えている問題に対し助言をいただいた事を職員と話し合い実行したことで解決の手掛かりがつかめている。	日々の介護業務で疲れた職員の対応として、運営推進会議参加者による助言で、精神科医院スタッフとの交流を試み、「優しくなれない」「仕事に負担を感じる」などのマイナスを払拭することができており、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の介護相談専門員訪問があり、入居者様の声を第三者の立場から聞いていただくことで、ケアの改善や職員の意識向上に繋がっている。	毎月熊本市相談員の訪問があり、利用者や職員への声掛けが行なわれ、意識向上に役立てられている。尚、今年度は市主催で交流会が開催されており、参加することで、他の事業所の情報を得、来年度への期待が寄せられていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する研修を行い正しい知識を取得し職員全員が身体拘束をしないケアを心掛けている。しかし、認知症の重度化により離脱防止や安全性を考慮し鍵により作動するエレベーターへと変更を行った。	利用者様の個別ケアを徹底して行い、全ての方に満足して頂いているかを課題として見直しを実施している。日常生活での身体拘束や居室の施錠は行なわれていないが、廊下続きとなっている「高齢者住宅」との兼用エレベーターを利用することから、安全性と離脱に配慮し、エレベーターには鍵が利用され、利用の度にスタッフが開錠している。階段に続くドアがあるが、こちらは緊急に備え施錠されていない。(ドアが重いので、入居者単独では開かない)	鍵を使わない代替案も検討されたが、建造物の構造上簡単には解決が難しいとの結果で現状に至っているが、更にスタッフの目配りで、利用者がエレベーターの前に立たれた際の新たな対応について、工夫が加えられると良いと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	市や県の研修会や施設内研修会に参加し虐待についての勉強会を開き、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県の研修会に参加したり施設内にて権利擁護の研修を開き、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書・重要事項説明書の内容を詳細に説明している。また、入居に対する家族の不安を軽減する為に家族の思いを傾聴することを重んじた契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会を開催し、外部者へ表せる機会を設けている。また、家族や入居者より意見や要望があれば傾聴し直ぐに検討・改善・取り組みを行うように努めている。	「お世話になっている」意識からか、家族からの意見・要望は出にくい状況。そこで、何とか利用者・家族の気持ちを引き出そうと努力した結果「熊本弁が強く感じる」ことが分かり、各フロアで言葉使いに対する注意を喚起。不満がないから「言わない」ではなく、「言えない」状況ではなかったか、と全員の反省に繋げていた。また、利用者の日常を家族に知ってもらうため、写真を多く取り入れた「きら新聞」を毎月発行し、安心を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議にて全職員が自由に発言できる機会を設けている。	スタッフ会議は一時間と決めているが、「意見を出し、検討し合うことが会議」とし、時間を延長しても内容検討を重視している。ホームは2ユニットであることから、それぞれの現状や課題の報告の他、ケアの方法・手段についても検討し合っている。理事長も参加する接遇研修会もあり、意見・提案を運営に反映させる仕組みとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を遵守しながら労働時間等を守り、資格取得や勤務状況などを勘案し給与に反映させるなど、職員のやりがいや向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加については積極的に研修を受けられる機会が与えられている。また、経費の補助は確立されており研修を受けやすい環境を配分している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に登録し参加している。参加した内容は職員に報告しサービスの質の向上に役立っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決めて入居者との信頼関係を築きやすいようにしている。又、生活歴や性格などを尊重し各々に応じた安心する声掛け、傾聴することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を聞くことにより当施設で解決できる事、家族の協力を必要とする事などを列挙して認識の合致を図っている。入居者に事前調査を行い情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に今、何が必要かを検討し、必要に応じ対応している。特に帰宅願望に対するケアを必要とされるケースが多く、家族と本人の心のケアについて対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等を利用者と共にやり、職員も暮らしの一部として取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での連絡を密に行うことで本人の状態を正しく理解していただけるよう努めている。また、「きらら新聞」を毎月発行し、日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り面会をお願いしている。また、知人や親戚が来所された際には家族にも報告している。	利用者への面会訪問の他に「家族会」があり、クリスマスや夏祭りなどの行事前には、毎年三回程家族全員が揃う機会が作られている。また、隣接する特定高齢者住宅(14室)の利用者も参加し、合同で行事を行うことから、100名近くが集い、オープンな交流の機会となっており、精神的な安定を図っている。又、外泊は無理でも家族との外出で、日帰り温泉や外食を利用して過ごす家族もあり、親子関係の密な係わりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ケアを中心とし、利用者の個性の把握と相性を考慮している。他者とのコミュニケーションが難しい方は職員が間に入り橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化し医療的な処置が必要となつてからの退所が殆どであり1~2回の面会を行うも、契約終了後、継続的な関係を続けることが実践できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から思いや希望を汲み取る様、努めている。	家族には「介護鬱」に陥り、ホームを利用することになった人もあり、入居者と家族それぞれの想いを把握し対応することに心掛け、親子関係の修復も対応されている。利用者職員マンツーマンでの買い物や散歩など外出時に、利用者の本音を聴き取る手法も取られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境など、前の生活に近付いている様、努めているが、まだまだ不足している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や個人別の記録を充実するよう努めている。又、日々の変化は申し送りで伝えたり、ノートに記入し職員全員が情報を共有し把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との面談を通してそれぞれの思いを十分汲み取ることが出来るようにと考えている。また、モニタリングを通してケアプランの見直しをしている。	担当者会議では、介護計画通りに行かない対応結果や、モニタリング結果をどのように記録に反映させるかを検討。記録・表現の仕方の研修会を実施し、各フロアーに開催予告を出して希望者への対応を図っている。介護計画は家族も巻き込んで見直しを行っている。	計画書への文言書き込みや記録の付け方の工夫を思案中とか。目視したこと、聴き取ったこと、後々の参考にとても大切であり、スタッフ間の情報共有化にも繋がるので、事実の書き込みは重要と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りにて日々の変化や情報を共有できるように努めている。また、フロアミーティングにより職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族等の協力を得て、取り組む努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りの案内を地域に向けて発信したり、毎月の誕生会には法人内の保育園児との交流を行い、教室ごとや余興のボランティアを積極的に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態の変化や本人が受診を希望した際には係りつけ医や家族に連絡を取り、いつでも受診できる体制をとっている。家族が忙しく受診の対応ができない場合には施設のほうで対応の支援を行っている。	内科等の診察のみではなく、精神科への受診を躊躇される家族も多く、「認知症について」の研修会を開催したり、ガイドブックを作成して配布するなど理解を得ており、近隣の医療機関と、利用者の従来からの掛かりつけ医の利用支援が行われている。尚、受診同行の際は別途料金が発生する事も説明されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々バイタルチェックや様子観察を行い、必要があれば看護師に報告、指示を仰ぎ往診の依頼や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には平常時のデーター、体調の変化があった時からデーターを用意し、すぐに処置出来る様努めている。入院時は病院宛の施設側のサマリーを作成し提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し、可能な限り施設で対応するよう努める方針であるが、終末期に對しての対応は現時点では不十分である。	看護師の24時間オンコール体制や、協力医との連携は取れているが、酸素吸入器や点滴までは対応されていないので、継続した医療対応は難しいと説明されている。しかし、利用者・家族はできるだけ長くこのまま最後を迎えさせたいという希望で、要望に応えきれないことが悩みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	託麻消防署の協力を得て救命講習の研修を行っている。急変時マニュアルを作成し、全ての職員が周知出来る様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置など火災時に必要な設備は整っている。託麻消防署の協力を得て火災避難訓練は実施しているが、地震や水害時の訓練は実施していない。	基本的な避難訓練は行なっているが、2階3階の重度(車椅子)の利用者一人一人をどのような形で救出するか、等具体的な訓練までには至っていないように思われる。託麻消防署の職員が運営推進委員でもあり、協力を依頼して避難の在り方を再検討することも可能と思われる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	回答の得やすい言葉掛けをし、話しやすい環境作りや、居室等、プライベートの部分では、本人の承諾を得てから入室している。接遇研修を行い、日頃から、言葉かけに関しては注意するよう心掛けている。	各ユニットはリビングを中心にトイレが三か所ずつ配置されているが、扉の中心部分に擦りガラスがはめ込まれ、室内灯で扉を開ける前に先客があることが分かり、利用中に扉を開けて失礼することがない対応となっている。居室はその人の「城」として、リビングで時を過ごされる間は扉を閉ざし、利用者のプライバシー保護に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員が1対1になった時に思いや希望が聞けるよう努めており、職員と入居者との信頼関係の構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの希望があれば、優先し、対応できるよう努めているが、状況により職員側の都合が優先されることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの配慮、外出時の洋服の配慮などに気をつけている。アクセサリー作りなどをし、おしゃれに関心を持つ支援を行ったり、訪問カットの利用などの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て1階にある給食センターからの提供である。昼食は職員も一緒に頂き楽しく食事ができるよう心掛けている。また、誕生会でのケーキ作りやおやつ作りを楽しんでいる。	食事は同法人の給食サービス事業所から毎食届き、職員は材料の買い物や調理に掛ける時間を利用者との会話に当てている。昼食は、利用者と同じテーブルで食べているが、利用者と同じメニューで食べている人、弁当持参の人、カップヌードルの人と様々。「それ何？」と、職員の弁当を覗き込んで話が広がったり、おかずを換えっこしたり・・・楽しい情景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表、摂取状況がわかる表を作り、栄養バランス表を確認しながら、バランスの良い食事が出来る様努めている。食事摂取量が極めて少ない方は栄養補助食品などの利用で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各利用者に応じた、口腔ケアの支援や、夜間義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のレベルに合わせパット、リハビリパンツの使用。 利用者の排泄パターンを把握し対応している。	毎朝10時にオリゴ糖入りヨーグルトを提供し、自然な排便を誘導しており、便秘予防対策が図られている。紙オムツ利用者、パットのみ利用者、リハビリパンツの利用者と、その人に合わせた対応となっている。夜間は2時間毎の巡視で排泄を確認。熟睡している人は起こさず、防水シートを利用しカバーされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のゲル音、腹部の張りの確認、運動の声掛けにより、便秘予防に努めている。また、食物繊維が豊富なバナナを食することで排便コントロールができていいる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特に入浴の曜日や時間は決めてはいない。声掛け誘導し入浴される方が殆どである。週3回位入浴でいきょうしている。	2階に特殊浴、3階には普通の浴槽が準備されており、利用者の気分に合わせて入浴介助が行われている。元気な時からの入浴習慣を大切に、夕方・寝る前と、会話を大切にしながらの誘導が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時は居室にて、休んで頂くが、日中、寝てばかりいる方は、昼夜逆転しないよう日中に活動ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されると、1週間バイタルチェックを行い、変化を観察し、対応する。薬効表を確認し、副作用や、用法、用量の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自発的に家事等、やりたいことを出来る様支援している。また、性格や生活の中から本人の負担にならないよう配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は出来るだけ散歩に出かけ、季節の花々を見て気分転換を行っている。また、4Fの屋上ガーデンに行き、野菜を収穫したり簡単な漬物を作ったりしている。	自由な外出が困難となった利用者が増え、全員での外出がしにくくなったのが管理者の悩み。午後の時間は、エレベーターを使い4階のディルームへ移動し、ゲームをしたり屋上菜園で野菜の収穫・草取りをするなど、外気浴の機会が作られている。また、道を挟んでスーパーがあり、希望者と共に買い物にも出掛けているが、全員揃っての外出が困難な分、個別対応で努力されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のホームで行っており、支払いも所持も困難である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時に、かけて頂いているが、現在は希望の訴えは殆どない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や窓際に観葉植物や季節の花を飾っている。また、毎月貼り絵のカレンダーを一緒に作っている。	リビングには外を眺められるカウンターがあり、その隅を定位置として居場所に決め、計算学習をしている人、キッチン前の幅広カウンターが私の場所と本を読む人、ゆっくり座れるソファがいいと、テレビを見る人、小上がりになった畳の空間でフットマッサージをしている人と楽しそうな活用が見られた。また、スタッフルームとはガラス窓越しに会話もでき、記録しながらの見守りや、作業中の職員へ直接用事を依頼するなど、自由な交流がみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外はそれぞれ好きな場所で過ごしていただくようソファや畳などの空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の安全を配慮した上で、本人や家族の意見を取り入れた空間作りをしている。	各居室には洗面台と収納庫・ベッドが備え付けられ、テレビや冷蔵庫を持ち込んでいる人、洋服掛けに沢山の服や帽子・手提げなどを掛けている人等、その人らしい飾りつけで居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室では本人の移動手段に合わせた環境設定を行っている。また、それぞれの部屋に名札は設置されているが、入居者の目線ではないため認識には不十分である為、工夫が必要である。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100859		
法人名	社会福祉法人 星峰会		
事業所名	グループホーム きらら(3F)		
所在地	熊本県熊本市東区新南部3丁目7番76号		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量の多い道路に面し、4階建ての2階3階部分に位置する街型のグループホームという立地条件を考慮し、建物内での取り組みに工夫をしている。4階部分のホールを利用し、趣味活動、交流の場とし、施設内にいながら4階のホールへ毎日出かけるという形をとることで、出かける楽しみが生活の中に取り込まれている。隣接する医療機関と連携を図り、利用者の健康管理や緊急対応にも万全の体制を整えている。また、運営推進会議を開催し、地域の方々や各関係機関の方々との情報交換やきららの活動報告などを行い、必要時に相談・助言をいただき連携を深めている。家族会も年3回を目標に開催し、交流を深めることでご家族の心の悩みに寄り添い、入居者様・ご家族双方が元気でいられるよう支援していくことに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(3F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践するよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩中には周囲の方達への挨拶をするよう心がけ近くのスーパーに買い物に行く機会も設けている。地域の「コミセン祭り」などへの参加のお誘いはいただいているが、まだ実践できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方に運営推進会議へ出席していただき事業所の存在を情報発信していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し現状報告と共に現在抱えている問題に対し助言をいただいた事を職員と話し合い実行したことで解決の手掛かりがつかめている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の介護相談専門員訪問があり、入居者様の声を第三者の立場から聞いていただくことで、ケアの改善や職員の意識向上に繋がっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての研修を行い正しい知識を取得し職員全員が身体拘束をしないケアを心掛けている。しかし、認知症の重度化により離設防止や安全性を考慮し鍵により作動するエレベーターへと変更を行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市や県の研修会や施設内研修会に参加し虐待についての勉強会を開き、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県の研修会に参加したり施設内にて権利擁護の研修を開き、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書・重要事項説明書の内容を詳細に説明している。また、入居に対する家族の不安を軽減する為に家族の思いを傾聴することを重んじた契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会を開催し、外部者へ表せる機会を設けている。また、家族や入居者より意見や要望があれば傾聴し直ぐに検討・改善・取り組みを行うように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議にて全職員が自由に発言できる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を遵守しながら労働時間等を守り、資格取得や勤務状況などを勘案し給与に反映させるなど、職員のやりがいや向上心に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加については積極的に研修を受ける機会が与えられている。また、経費の補助は確立されており研修を受けやすい環境を配分している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に登録し参加している。参加した内容は職員に報告しサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント・モニタリング・カンファレンス、ショートカンファレンスを行い、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居申込時に困っていること、入居に対しての要望までの相談を受けアドバイスし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が必要としている支援を提出できるようカンファレンス時に意見を述べ合い支援できるよう努めている。また、事前調査を行い情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに生きる」ことを念頭に置き、家事等の一部を共に行い、役割を持ち生き生きと暮らせる様な関係作りに努めているが、状況により介護される一方の立場においた対応にならざるおえない時がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を毎月「きらら新聞」を発行することによりご家族に伝え、面会時や電話にて細かい近況報告を行っている。また、家族からの相談事にも随時対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りの面会をお願いし、親戚・知人などの面会時には家族にも報告している。家族の面会は入居者の精神的な安定にも繋がっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで本人の心地よい居場所を確保し、孤立することのないようにお互いに関われるように支援している。時には、ぶつかりトラブルになることもあるが、職員が間に入り潤滑油の役目を果たすこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化し医療的処置が必要となった時の退所が殆どであり、退所後の面会など行うこともあるが継続的にはできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に暮らし方の希望や意向の把握に努め、自己決定権を尊重しながら、本人が納得出来るまで話し合うと同時に、職員間でも十分に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	随時本人、家族から、自尊心を傷つける事のない範囲で、出来るだけ詳しく、これまでの暮らし方や生活環境を聞きその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をケース記録に残し、それを基に、心身状態、有する能力の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に本人・御家族の意向を把握し、モニタリングを行い、介護計画に反映させています。また、必要に応じ、医師・看護師の助言をもらっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の詳細を記録し情報を共有しながら速やかに見直しをし、活かしている。また、フロアミーティングで職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に対応出来るよう多角的に現状を把握し、柔軟な支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りの案内を地域に投げかけたり、誕生会での保育園児との交流を楽しんだり、教室ごとや余興ボランティアを積極的に取り入れ豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、協力医、近隣の医院など本人家族が納得できる医療が受けられるように支援している。また、協力医が週1回往診に来ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を観察し必要があれば看護師に報告する。看護師の判断で往診依頼したり、受診を行ったり適切な医療看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者及びケアマネが医療機関や家族と連携をとり、対応している。入退院の際は双方がサマリーの提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関し家族と話し合い、家族の意向に添い可能な限りの対応をする方針であるが、現時点では不十分である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあり、それに添って対応出来る様心がけています。救急救命法の研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置などの設備は整っており消防署の協力により火災訓練を実施している。水害時の訓練は実施しておらず今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を受け、一人ひとりに合った言葉掛け、居室への出入り、入浴時等のプライバシー保護を行い、対応している。全スタッフが言葉掛けに関しては、注意をするよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表出しやすい関係づくりを心がけ、自己決定出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を優先し、出来るだけ希望に添って支援するよう努めているが、時折、職員側の都合が優先されることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時の配慮や外出時の身だしなみの支援などを行っている。また、訪問カット利用などの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託である為、調理などの支援はできないが、職員と食事を共にすることにより共に楽しく食事する環境ができています。おやつ作りなども積極的に実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好に合った物を中心に提供し、栄養バランス、水分量に配慮し支援しています。1日の食事量・水分量の記録を取り、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアの支援や、必要があれば介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者のレベルに合わせたパット、リハビリパンツの使用、介助が必要な方に対しては排泄パターンを把握し、運動や腹部マッサージを行いトイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ、腹部の張りの確認、運動の声掛けにより便秘予防に努めているが改善は少ない。また、ヨーグルトとオリゴ糖を毎日食していただき腸内を整える取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日時の決まりはありません。本人の希望に添った入浴を支援しています。入浴前には、健康チェックをしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間の決まりはありません。昼夜逆転にならないように日中に活動が出来る様支援し、穏やかな気分で眠りにつけるよう配慮しています。定期的にシーツ交換をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っており薬の変更、目的なども職員へ報告されている。薬が変更になった場合は、1週間の健康チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や嗜好を把握し、明日に繋げていけるような支援と、気分転換をしている。また、本人の負担にならないように配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には散歩に出かけ、季節毎のドライブも行っている。いつでも希望通りの外出ということには困難がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預かり金の管理はホームで行い、本人のこだわりでお金を手放せない方もいらっしゃるので家族と話し合い少額を管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大半はホームの電話を申し出に応じ使用しているが、携帯電話を所持している方もいます。手紙・電話の使用は基本的に自由に出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの席は、個々に選び利用し、それ以外は自由に利用が出来る。季節で壁のレイアウトを変えています。観葉植物を多く置き、風通しの良い工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみスペース、ソファ、エレベーターホールに、腰かけられるスペースを確保している。フロアは、食事以外自由席である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物はすべて個人が持ち込んだもので、使い慣れた馴染みの物を自由に配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物の排除、動線の確保、本人の移動手段に合わせた環境設定を行い安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫し、常に検討し改善している。		